

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

最終改訂年月 : 31 October 2002

**背景:** 頸部または腰部の脊椎関節突起関節痛の診断を下すには、局所麻酔を用いて疼痛のある関節に神経ブロックを施すしかない。慢性の脊椎関節突起関節痛または椎間板性疼痛の効果的治療法は不足している。高周波除神経は最新の方法であるとみられ、適用形態は国ごとに大きく異なっている。

**目的:** 筋骨格系疼痛障害の治療における高周波除神経の有効性について評価すること。

**検索戦略:** 開始時点から2002年2月までのMEDLINE、PsycLIT、EMBASE、ならびにCochrane Library 2002年2号を検索した。抽出した文献の参考文献を点検し、高周波治療の専門医3名に助言を求め、その他の試験を抽出した。

**選択基準:** 言語または日付に関わらず、筋骨格系疼痛障害における高周波除神経について調査されたランダム化比較試験(RCT)。

**データ収集分析:** 2名のレビューアが、あらかじめ定めた登録基準に適合するRCTを選択してデータを抽出し、選択した試験の主な結果および研究の質について統一フォームを用いて評価した。科学的エビデンスのレベルを評価するため、定性分析を実施した。

**主な結果:** 見出された文献は9件のみであり、関連する7件のRCTについて報告していた。このうち6件が質の高い試験とみなされた。選択した試験にはランダム化された275名の患者が含まれており、このうち141名に実治療が施された。1件の試験では頸部脊椎関節突起関節痛、2件の試験では頸腕痛、3件の試験では腰部脊椎関節突起関節痛、1件の試験では椎間板性腰痛が調査の対象とされていた。試験のサンプルサイズは小さく、追跡期間は短く、患者の選択、アウトカム評価、統計解析に若干の欠点があった。頸部脊椎関節突起関節痛と頸腕痛では、高周波除神経の短期間での有効性に関する科学的エビデンスのレベルが限られており、腰部脊椎関節突起関節痛では矛盾が見られた。椎間板内高周波電氣的凝固術は、椎間板性腰痛に対する効果がないことを示唆する限定的なエビデンスがある。

**レビューア見解:** 選択した試験から、高周波除神経では脊椎関節突起関節に原発する慢性頸部痛および慢性頸腕痛の短期間での低減が得られるとの限定的なエビデンスが得られており、脊椎関節突起関節に原発する慢性腰痛において、疼痛と障害に対しての高周波による短期間での効果に関しては矛盾するエビデンスがある。また、椎間板内高周波電氣的凝固術は、慢性椎間板性腰痛には効果がないことを示す限定的なエビデンスがある。現在のエビデンスは決定的なものでないため、多数の患者サンプルでの長期間効果に関するデータが得られる高品質のRCTを今後実施する必要がある。また、現在のところ高周波除神経が科学的エビデンスなしに実施されていることから、脊柱以外の指標を用いたRCTが必要である。

**Citation:** Niemisto L, Kalso E, Malmivaara A, Seitsalo S, Hurri H. Radiofrequency denervation for neck and back pain. The Cochrane Database of Systematic Reviews 2003, Issue 1. Art. No.: CD004058. DOI: 10.1002/14651858.CD004058.

**Clib issue No.:** 2005 issue 4

**CRG名:** Back

\* ご注意: この日本語訳は、試験的翻訳(Draft翻訳)版として公開するものであり、翻訳の正確さや質が保証されたものではありません。訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡下さい。また、この試験的翻訳版はコクラン・ライブラリ2005年issue 4に掲載されたレビュー・アブストラクトの翻訳です。コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されていますので、ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認下さい。